

那珂川町都市計画審議会 第1回立地適正化計画検討部会

■会議概要

日 時	平成30年9月5日(水)14:00~16:00
場 所	勤労青少年ホーム2階 第1・第2会議室
会 議 次 第	1 開会 2 委嘱状交付 3 委員紹介 4 部会の位置付けについて 5 部会長選出 6 議事 (1)立地適正化計画について (2)アンケート調査の実施について 7 その他 8 閉会
配 付 資 料	<ul style="list-style-type: none"> ・資料1 委員名簿 ・資料 2-1 那珂川町都市計画審議会設置条例 ・資料 2-2 那珂川町都市計画審議会専門部会の設置及び運営に関する要綱 ・資料 2-3 立地適正化計画検討部会の位置付け ・資料 3 立地適正化計画の策定について ・資料 4-1 立地適正化計画アンケート調査の実施について ・資料 4-2 アンケート調査票 ・参考資料 1 立地適正化計画の概要(国パンフレット)
参 加 者	立地適正化計画検討部会委員(名簿参照) ※欠席:一名 事務局(那珂川町地域整備部都市計画課) その他(玉野総合コンサルタント)

■議事録 ※議事録中では立地適正化計画=立適と表記

1. 開会

事務局：〈開会のあいさつ〉

2. 委嘱状交付

事務局：本日が初回の立地適正化計画検討部会の開催なので、委嘱状を交付する。那珂川町都市計画審議会設置条例第5条第3項の規定に基づき、町長が委嘱することになっているが、本日業務の都合により不在のため、代理として副町長より委嘱状の交付を行う。

副町長：(あいさつ)

事務局：副町長は業務の都合により退席させていただく。

3. 委員紹介

事務局：各委員より自己紹介をお願いします。

<各委員による自己紹介>

4. 部会の位置付けについて

事務局：<部会の位置付けについて説明>

5. 部会長選出

事務局：那珂川町都市計画審議会専門部会の設置及び運営に関する要綱第5条に基づき、部会長は委員の互選により定めることとなっている。立候補又は推薦はあるか。

委員：<立候補、推薦なし>

事務局：事務局から柴田委員を推薦したい。

委員全員：異議なし。

柴田委員（以下会長）：お受けする。

事務局：次に第5条第2項の規定に基づき、会長代理を指名していただく。

会長：会長代理に田上委員を指名する。

事務局：以降の進行は、会長をお願いします。

6. 議事

（1）立地適正化計画

事務局：<立地適正化計画について説明>

会長：何か質疑はないか。

委員：「コンパクトシティをめぐる誤解」の中で、強制的な集約ではなく誘導による集約とはどういうことか。

事務局：立適の策定により、誘導区域外の新築等に届出義務が課され、行政が開発動向を把握できるようになる。その際誘導区域内への立地を促す等により誘導できる。これまでの都市計画は用途地域や市街化調整区域等規制が主であったが、立適は集約を図るエリアに対して補助金を与える等「誘導」がメインとなる。強制ではなく、誘導により時間をかけて集約するものである。

委員：農振農用地等、家を建てられない地域がどこか明確でないと立地適正化の議論は難しいと思うが、誘導にあたってそういった網掛けも外されるのか。

事務局：農振農用地は別の制度であるため、存続する。基本的に立適は都市部（市街化区域）を対象とする。市街化区域の中でも、一定の区域を定めて都市機能を集約する拠点や拠点間の公共交通網の形成により、住み良いまちづくりを行うものである。

委員：別の制度ということであれば、誘導によるデザインを立適で検討していくということが良いか。

事務局：良い。市街化区域・用途地域は既に一定の規制や決まりがあるが、それより一歩踏み込み、どういう施設を誘導し、どういう街にするかということを立てていく。

会長：強制的な集約をする「コンパクトシティ」は全国的にもうまくいっていない。人はうまみがないと

動いてくれないということである。うまみのあるエリアの設定をすることが立適の一番の趣旨となる。

また一極集中を全面的に打ち出したのが最初のコンパクトシティであるが、そうではなくエリア毎に多極的な核に集約し公共交通ネットワークを整えるということも立適の趣旨である。

全国的に立適がつくられているが、本当に全てうまくいくかどうかはわからない。これから、計画を策定する上で、那珂川町が将来的にどのようなストーリーでまちづくりを行うかを検討することが重要である。

委員：今は、社会構造が1年でもガラッと変わってしまう状況にあるが、2年で計画を策定した後、見直しのプロセスは考えているか。

事務局：見直しは概ね5年毎に行う。その時点で修正が必要であれば対応していく。

委員：20年後の計画を策定するため、今現在の感覚やニーズで話すと将来のお荷物をつくる可能性がある。そのため、人口推計だけでなく、その推計に基づき税金がどのくらい減って公共が担える部分の事業レベルがどの程度落ちるのかなど、参考程度で良いので出来る範囲でデータがあれば考えやすい。

事務局：今後検討していくにあたって必要な資料は準備したい。

委員：春日市や福岡市など隣接した行政区に買い物に行くなどの生活パターンもあると思うので、広域的な形で拠点考えた方が良いのではないか。公共交通についても、現在行政区をまたぐと補助金の関係で難しく運行されていない。路線バスのネットワークについても広域的な視点を入れられないか。バスは路線を集約するにあたってコンパクトシティの中で、大型バスの走る幹線、中型やデマンド交通にする路線等、路線の重みのようなものができてくると思うが、そういうことが地域の方に納得していただけるような計画になると良い。

事務局：公共交通は立適の中でも非常に重要な一面を持っている。交通は同時期に交通体系の見直しなどを行っており、立適の内容も十分考慮した上で検討することとなっている。立適の中で、どのように合理的に、かつ住民の皆さまの満足が得られるようになるか一緒に検討していきたい。

会長：公共交通も商業機能も、どこに住んでいる人がどこに買い物にいつているかなど、現状を知るデータがないとどこに集約していいか議論しにくいところではある。

委員：山田地区や役場周辺など拠点として位置付けても、現在公共交通が幹線といえるほど充実していない、高齢化が進んでいるような地域で、本当に集約や市街化が図られるのか。現実的に実現可能なのか。

事務局：役場の立地の利便性についてはこれまでも課題として挙がっているが、利便性だけでは図れないものであり現段階で移転などの話はない。ただ、公共交通でアクセスを容易にする必要がある。山田以南にもかわせみバスを通してはいるが、公共交通は見直しの連続であり、より良いものを考えていきたい。山田は古くから交通の要所であるため、そこに集約することを考えている。また、商業について、町内の方が福岡市や春日市の大規模商業施設に行くことが多いが、それを町の中で消費してもらうことも課題であり、立適によりその方向性を明確にできればと考えている。本気で取り組む考えである。

委員：コンパクトシティの先行事例や失敗事例などはあるか。課題が大きく、具体論がイメージしにくい。

会 長：全国的にコンパクトシティはほとんどうまくいっていないといっても過言ではない。その要因として日本人の土地への執着が非常に強いことがある。近年災害が多いがヨーロッパでは災害が発生すると地域ごと住み替わることもある。日本では、同じ場所で復旧・復興により住み続けていくといった文化的背景がある。

一方、高齢化が進み一人で生活できない状況が到来するため、その際にばらばらに移転するのではなく、都市全体の機能性を考えた上で移転した方が全体的なまちづくりとして幸せになる。そういった時代が到来する今をチャンスと捉え、効率的・効果的な移転を促すという流れになっていると思う。

重要な都市機能として病院や福祉施設が掲げられているのも、今後 20 年の間にとんでもない超高齢化が進む背景がある。その際に、都市の周縁部では買いものや介護などどう生活するかを考えないといけなくなる。大体は子供のいる場所の近くに住み替えると思うが、それ以外の選択肢として、都市としてもあるべき方向性を検討することが立適の議論となる。また、近年都市部に住んでいる若者で自然を求めて田舎に住み替えたいというニーズがある。ただ、何の地縁もなく住みにくい場合は、定住につながらない。そのため、ある程度の都市機能が近くにあることが、移住者を促すためにも大事なことである。

委 員：20 年後の計画であれば、今の子育て世代の子供たちが成長しているというイメージになるが、そういった若者や学生、子育て世代の意見を吸い上げることはできないか。

また、まちづくりがいつの間にか決まっていたとか、どのようなことをやっているのか知らない方がとても多いため、今後こういった会議の状況を発信していくことが重要。

事務局：立適の制度や町の考え方をうまく伝えることは非常に悩ましい。ホームページで周知しても、ただ出すだけでは皆さんに伝わらない、まず見てもらう必要がある。そのため、周知の仕方やどのような説明をすればご理解いただけるかよくよく考えていきたい。

特に、計画案ができた時には説明会の開催等をしたい。

会 長：出来上がった案を説明するというスタンスだけでなく、たくさんの視野を詰め込んだものをつくるというイメージが重要。

委 員：この場で議論することは、例えばこの地区でどういう施設があるべきかなどの設定を考えるものか。計画をつくった後に、その計画に沿って環境整備や資金面の検討も必要になると思うが、ここでは、具体的に何を検討するのか。

事務局：どこを拠点にし、そこに何を持ってきてどういう拠点にするか、ということが非常に大事な検討事項になる。また、そこに持ってくるための誘導施策についても皆さんの意見を聞きながら考えていきたい。

会 長：お金の問題も非常に深刻で、もし立適がないと、土地の安いところに大きな施設が移動しようとする。そうすると秩序がないまちづくりになるため、誘導区域を設定しそういった開発が行われるかチェックできることが大事。但し、強制的な集約でないため勧告くらいのレベルなので、計画を立てたあともう一つハードルがある。

委 員：那珂川町の場合は、大半の人が住んでいる部分は町の 3 分の 1 の市街地の部分で一極集中している。人口が伸びた春日市は調整区域がないが、那珂川町は調整区域が多く非常にやりにくい。

農家で土地を持っている人は、手放さないし、市街化区域にすると固定資産税が上がるため反対が多くなる。バスの営業所を山田にという話もあったが、反対された。

公共交通にしてもそうだが、目的をはっきりさせないとまとまるものもまとまらないと思う。

会 長：全ての街で多極化する必要もないので、那珂川町に沿った極の作り方が今後検討されると良い。

(2) アンケート調査の実施について

コンサル：〈アンケート調査について説明〉

委 員：町外の若い世代等にとって何が魅力なのか等、移住の観点から町外のニーズを聞く必要はないか。

事務局：とても重要な話だが、今回のアンケートは町内が対象。策定期間の中で、必要なデータや情報を集める機会があれば良い。

委 員：実際の移住してきた人が、町やその地域を選んだ理由等は聞けないか。

事務局：現在、経営企画課で、転出入者に対する個別の聞き取り等、人口動態調査をしており、その結果も今回の計画検討材料として参考となるよう、委員の皆さまにもお知らせしたい。

委 員：今回のアンケートの目的は、移住や町の魅力を聞くものではなく、町民の行動分析を知るものと認識している。

行動分析をする中で、生活に必要な最低限必要なものに絞って聞いているが、余暇の過ごし方などもう少し広げて聞くと、それこそそこに住む理由につながってくるのではないか。

委 員：今の場所から移り住みたくない理由を聞くのはどうか。移り住みたくない人が本当に多いのかどうか、状況によっては、住み替えてもいい人がいることを把握できると考えやすい。

委 員：福祉施設の移動手段を聞いたり、通所型施設に限定したりしている意図が分からない。また、高齢者福祉施設の場合、ほとんどが施設の送迎車を利用している。

コンサル：通所型の施設に限定しているのは、立適の考え方で商業・病院・福祉などが歩いて行ける範囲にあることを良しとしており、歩いて通えるということを意識している。ただ、現状として施設の送迎車が多いかと思うが、それも他の施設の選択肢との比較によって、データとして把握したい。

委 員：「送迎車」の選択肢を最初に設けた方が、回答者が誤ってバスや車を選択することも防げて良いのではないか。

会 長：アンケートの設問項目としては、他施設と揃えて基礎情報とした方が良いが、加えて不満の理由まで聞くと、同じ設問でも情報がよりクリアになる。

事務局：本日頂いた意見を参考にアンケート調査を修正したい。

会 長：修正後のアンケート調査票の内容の確認については、一任していただけるか。

委員全員：異議なし。

7. その他

会 長：その他何かあるか。

事務局：なし。

8. 閉会

会 長：〈閉会のあいさつ〉